# 先人が築いた ため池群（ため池ルート）

## ため池群

上大利地区には多くのため池が残されています。これらのため池は、少なくとも江戸時代以降、上大利村、下大利村、白木原村といった村々に農業用水を安定供給する役割を担ってきました。現在、三兼池や日の浦池は、市民の身近な親水公園として親しまれています。

### 1 新池 しんいけ

水城跡の西端に位置するため池です。周囲には遊歩道が整備されており、水城跡の自然を感じながら、水辺空間を楽しむことができます。

水城ゆめ広場にあるあずまやからは新池を望みながら休憩することもできます。

### 2 三兼池 みかねいけ

ここには、噴水や展望テラスがあり、市民の憩いの場として親しまれています。ため池のほとりに建つ碑は、用水路の建設に尽力した偉人の功績を称える「溜井之碑」です。また、公園内に残る6～7世紀ごろの須恵器窯跡である「梅頭窯跡」（国指定史跡「牛頸須恵器窯跡」の一つ）では、窯跡の様子を見学することもできます。

### 3 溜井之碑 ためいのひ

私財を投じて牛頸から用水路を明治10（1877）年に完成させた森山庄太の功績を称える石碑です。牛頸川の北田井堰より取水された水は、日の浦池を通り、三兼池に注いでいます。この完成によって、白木原村、上大利村、春日村は、干ばつのときでも豊かな実りを得ることができるようになりました。

### 4 日の浦池 ひのうらいけ

なだらかな丘陵地に位置するため池です。水際を結ぶ散策路をはじめ、多くの人々に親水空間として親しまれています。また、公園内にはビオトープがあり、気軽に自然と触れ合うことができます。かつてこの地域の人々の生活を潤したため池に想いを馳せながら、のんびりとした時間をお過ごしください。

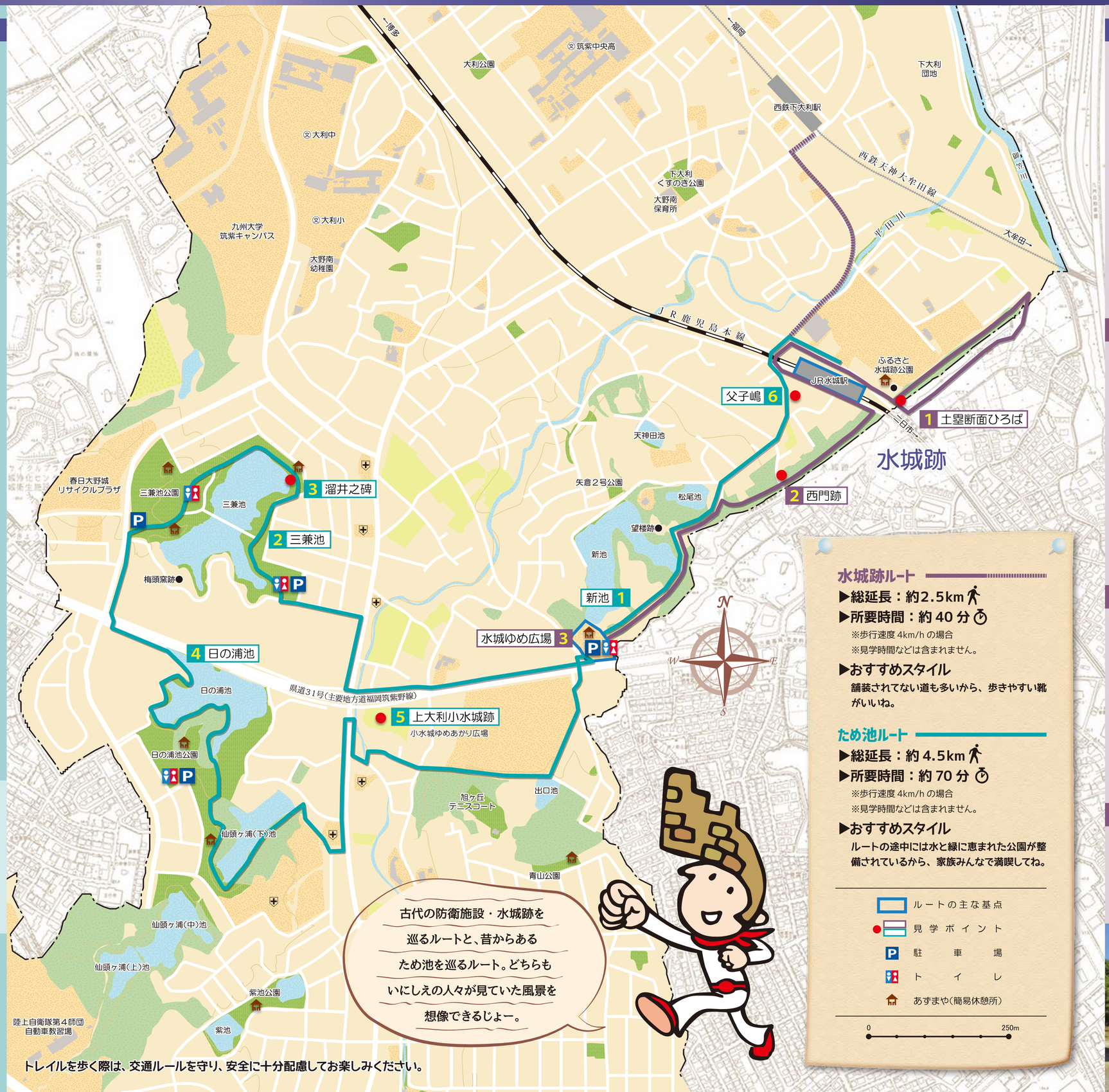
### 5 上大利小水城跡 かみおおりしょうみずきあと

県道31号線に位置し、高さ約2m、基底最大幅約15m、長さ約80mですが、本来はもっと高く、両端部は台地に結びついていたものと推定されます。水城跡と同じ頃に防御施設として造られたと考えられており、国の特別史跡に指定されています。

### 6 父子嶋 ててこじま

JR水城駅西側、住宅地の中にある小山です。伝説には、水城が完成した時に働いていた親子が放り出した土が積もってできた小山だと伝えられています。

（私有地ですので見学の際はご留意ください）




トレイルを歩く際は、交通ルールを守り、安全に十分配慮してお楽しみください。

# 巨大な古代防衛施設・水城（水城跡ルート）

## 水城跡

国指定の特別史跡であり、『日本書紀』にも記されている巨大な古代防衛施設の遺跡です。

天智3（664）年に築かれ、全体の長さは1．2ｋｍあります。高さ約10ｍ、最大幅80ｍの土塁と幅60ｍの外濠が造られていました。

当時の姿を残す遺跡を巡ると、その壮大さを実感するでしょう。

### 1 土塁断面ひろば どるいだんめんひろば

水城の土塁（大堤）の構造と造り方を解説している広場です。

土塁は崩れないように砂質土と粘性土を交互に入れて硬く突き締められています。この工法を版築といい、断面には縞状に見えます。また、地盤が軟らかい部分は葉がついたままの枝を切って敷きつめて盛土を行っています。この工法を敷粗朶（しきそだ）工法や敷葉（しきば）工法といい、現代の土木技術にも通じるものです。

### 2 西門跡 にしもんあと

水城跡には北側から大宰府に入る官道の位置に東西2つの門があり、西門は発掘調査の結果、3回建て直されていることがわかっています。

官道の延長線上に筑紫館（のちの鴻臚館）があったため、外交使節などはここを通っていたと考えられています。

### 3 水城ゆめ広場 みずきゆめひろば

特別史跡水城跡を現地で学ぶことができる史跡めぐりの拠点です。解説板やトイレ、あずまやが設置されています。水城跡の西門跡まで約500ｍで歩いて行くことができます。名称は公募され、大利小の小学生など2人の提案です。

### 水城跡ルート

▶総延長：約2.5km

▶所要時間：約 40 分

※歩行速度 4km/h の場合

※見学時間などは含まれません。

▶おすすめスタイル

**舗装されてない道も多いから、歩きやすい靴がいいね。**

### ため池ルート

▶総延長：約 4.5km

▶所要時間：約 70 分

※歩行速度 4km/h の場合

※見学時間などは含まれません。

▶おすすめスタイル

**ルートの途中には水と緑に恵まれた公園が整備されているから、家族みんなで満喫してね。**

ルートの主な基点

見学ポイント

P 駐車場

トイレ

あずまや（簡易休憩所）

0 250m